

P2 が生む制作環境の向上・新しい技術開発に期待 広く映画制作を実現する効率的なワークフロー

オムニバス映画 「R246 STORY」

アソシエート・プロデューサー：横川圭希氏

09

2008年8月から全国ロードショーされた映画「R246 STORY」は、メモリーカード・カメラレコーダー“P2 cam”「AG-HPX555」をはじめとする P2 システムを活用したワークフローにより制作された。撮影現場では P2 mobile「AJ-HPM110」や P2 store「AJ-PCS060G」も活用された。

「R246 STORY」は、246（ニーヨンロク）の通称で親しまれ、青山・表参道・原宿・渋谷といったジャパニーズ・カルチャーの発信地を沿道に抱えたシンボリックな国道 246 号線をテーマに、浅野忠信「224466」、中村獅童「JIRO ル〜伝説の YO・NA・O・SHI」、須藤元気「ありふれた帰省」、VERBAL (m-flo)「DEAD NOISE」、ILMARI (RIP SLYME)「CLUB246」、ユースケ・サンタマリア「弁当夫婦」の異業種監督 6 人がメガホンをとったショート・フィルムのオムニバス作品。

ワークフローの基本形は、撮影後 P2 カードのデータを HDD に落とし、Adobe Premiere でカット編集、After Effects で小規模なエフェクト兼合成などを行い、フル HD サイズの TIFF 連番ファイルを作成。エクサ・インターナショナルの Inferno でオンライン編集、da vinci でカラーコレクションを行った。なお、6 作品中「224466」と「DEAD NOISE」では After Effects 上でカラコレ作業した。また、「JIRO ル〜伝説の YO・NA・O・SHI」はテープで収録されており、ポストプロダクション作業用に P2 (720/24pN) にデジタル化した。映像化に向けたワークフロー設計や現場での VE および機材手配など技術プロデュースはソイ・ソース・クリエイティブが手がけた。

製作プロデューサーの豊田健雄氏（インダストリアル・ピクチャーズ）曰く「1 本 1000 万円というローバジェットの映画制作を実現させるには、ソイ・ソース・クリエイティブが中心となって進めた AG-HPX555 での撮影 (720/24pN)、P2 データによるやりとり可能な Premiere & After Effects による編集・カラコレなど、P2 システムを活用した効率的なワークフローは不可欠だった」。



ポスター



撮影風景



アソシエート・プロデューサーの横川圭希氏(ソイ・ソース・クリエイティブ)

○今回の「R246 STORY」は、メインカメラとして AG-HPX555 を使用し、部分的に AG-HVX200 も活用しています。撮影は 720/24p ネイティブで行いました。「映画」を撮影するなら 720/24p ネイティブが最適だと考えているからです。

○ P2 という新しいシステムが、映画やテレビ業界でもっと普及が進めば、編集関係など周辺機器の開発も進み、時間やコストをさらに削減することができ、ひいてはコンテンツの中身の充実にもつながると考えています。また、P2 を活用した作品の編集作業は Final Cut Pro で行われることが多いようですが、私たちは Premiere や After Effects といった Adobe 製品で行っています。P2 カードから直接取り込むことができるとともに、P2 データを書き出せるベストなワークフローと捉えています。

○ P2 システムが映画やコンテンツ制作における“革命”であるのは確かだと思います。P2 が普及した次の段階として、AVC HD の可能性にも期待しています。メディアに汎用性があり、多くの人たちが使っている SD カードを収録メディアに採用しているからです。こうしたオープンソースなものが生き残っていくと思っています。

○私達が「映画」を手がけるのは今回が初めてです。普段はミュージックビデオや企業映像、VP 制作に携わり、その中で技術的なチャレンジを沢山してきました。私たちだけではなく、様々な人たちが「映画制作」にどんどん参加し、本当の意味での競争が生まれていけば、とても良い方向になると考えます。そのための重要なツールとして P2 システムには大きな意味があると思っています。

